

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291800013		
法人名	株式会社 海愛		
事業所名	グループホームふくろうの森 1Fユニット		
所在地	島根県邑智郡川本町川下1319番地15		
自己評価作成日	令和4年9月18日	評価結果市町村受理日	令和4年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和4年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「身体が動く、心が動く、そんな楽しい時間を共に過ごす」を理念として、目に付く所に掲示して意識付け、小さな事でも報告・連絡・相談し、チームでケアに取り組んでいる。また、自然豊かな環境を活かし、ドライブなど利用者に季節を感じて頂けるように努めている。
山間地だが、国道沿いで各地からの交通の便が良く、消防署や病院(24時間連携)が近くにある事で緊急時や医療面で迅速な対応が可能である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホールでごはんを食べたら自分の部屋でテレビを楽しみ、散歩に行きたい時は散歩に出かけ・・・というように利用者のその時の気分や希望を尊重した対応を心掛け利用者ペースでの生活を大切にしている。コロナ禍で外出や家族や外部の人との交流は制限されているが、訪問美容師に来所してもらったり、散歩や花を摘んだり、塗り絵やパズル、家事をする人もありできることを支援している。それぞれのユニットには半期ごとにユニット目標と個人目標を掲示し、振り返りを行いながらケアの向上につなげている。オンラインでカフェや運営推進会議を開催するなどコロナ禍での取り組みを模索している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目のつく所に掲示し、復唱しているが、意識して共有できているかは個人差があり十分とは言えない。	理念はホールや職員の目につく所に掲示し唱和している。半期ごとにユニット目標や個人目標を立てて掲示し、振り返りを行いながらより良いケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアなど地域の行事には可能な範囲で積極的に参加していたが、コロナの影響で交流の機会は減っている。	コロナ禍にあり以前のような交流は行っていないが、散歩時などに挨拶したり地区の草刈りに職員が参加している。メールで依頼し訪問美容師に来てもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェなどで地域の人々に発信していたが、十分とは言えず、コロナの影響でその機会も減っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で、少人数で実施している。報告だけでなく、スライドショーで日頃の様子などを見てもらい、意見を頂いている。頂いた意見・改善点は必要に応じすぐに対応している。	現在、事業所と地域包括職員で行っている。他の事業所にZoomで参加してもらったこともある。現状をスライドや写真で伝え質問を受けたり助言を得ている。地域の委員には議事録を届けている。	現況がわかるように議事録を詳細に作成し、利用者、家族や地域の委員から意見の聞き取りを行うことと、会議内容を家族にも報告されることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃の連絡だけでなく、運営推進会議や地域ケア会議を通して連携をとっている。	運営推進会議や地域ケア連絡会で情報交換や情報提供、助言を受けるなど、協力を得て取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や毎月の委員会での書面報告など、尊厳を守るケアを確認する機会はあるが、職員の理解には差がある。日中、玄関には施錠していない。	内部研修や委員会で話し合い必要なことは資料で職員に伝えている。「ちょっと待つて」ではない言葉の使い方や車いすでの長時間の座位などに気をつけている。利用者の思いを知り対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連事項を施設内研修で学ぶ機会があり、言動に気を付け、虐待防止に努めているが、職員の理解には差がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修やオンラインなどで学ぶ機会はあるが、実際に活用できてはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	なるべく分かりやすいように、担当者が時間をかけ行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で意見、要望を伺っている。コロナの影響で電話やオンラインでの機会が増えているが、すぐ改善できる事には対応している。	便りや電話、オンラインで様子を伝え、意見を聞いている。家族から質問を受けたり要望に応え、気軽に相談してもらえるように接している。	家族の「会いたい」「どう暮らしているのだろう」という思いに寄り添い、さらに意見の引き出しや様子を伝える工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議は実施していないが、意見や提案があれば、報告・相談を受け、なるべく早めに対応している。	管理者はその都度職員の要望や提案を聞いていて職員はケアや疑問など気軽に相談できると感じている。日々の予定や文書などをパソコン打ちにしたり役割分担を決め業務改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や職員の事情を考慮した労働時間など子育て世代、介護世代でも働きやすい職場の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの希望で外部研修の機会を持ち、また内部研修を計画的に実施しスキルアップを期待している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェ(現在はオンラインで実施中)や研修時の情報交換などからケアに取り入れられる事もあるが、コロナの影響で機会が減っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を把握し、本人様のペースで関わり、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での機会が増えたが、話を伺い、要望に対応しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が何を求めているか、家族と話し、見極め、色々試しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を共にし、支え合う関係づくりに努めているが、介護の割合が増えてくると難しい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会を制限(オンライン)している事もあり、電話(や手紙)だけで本人と疎遠になってしまっている家族もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや地域のイベントへの参加など支援に努めているが、コロナの影響で機会が減り、支援が難しくなっている。	携帯電話や手紙で家族や馴染みの人と連絡を取り合っている人もいる。オンライン面会ができるように環境設定し利用を呼びかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見ながら、席の配置などを考えているが、居室内で過ごされる利用者が多くなっている。コミュニケーションが難しい利用者の支援は十分とは言えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も病院などで見かけ、言葉をかける事はあるが、まれである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話などから把握に努め、困難な場合は表情などから検討している。	会話や表情、行動などから把握しているが、意思疎通が困難な人もいる。言葉かけを工夫したり居室や人のいないところで話を聞くなど工夫している。情報はファイルに記録し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前事業所や本人、家族からの話を聞き、情報をまとめ、ユニット内で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録し、小さな気付きもユニット内で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時のミーティングや月1回担当者を中心にモニタリングを行い、本人の思いや職員の意見を取り入れ作成している。	電話などで家族の希望を聞き、職員の意見を聞きながら介護計画を作成している。毎月担当者を中心にモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や個別の記録に記入し、申し送り、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で、オンライン面会に対応した事以外の取り組みは、既存のサービスの範囲内と思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響もあり、把握・支援ともに不十分である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の診療に加え、かかりつけ医とは24時間相談できる医療体制である。	定期的な訪問診療と24時間対応できる体制を整えている。コロナ禍でオンライン診療やガラス越しでの診療の時もあった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に看護師がおり、気になる事はすぐに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期に情報提供を行い、病院関係者と定期的に連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約担当者が入居時に説明・確認しており、入院時など、必要時には再度方針を確認しながら支援を行っている。	入居時に事業所の方針を伝えている。状況変化時には家族、医師、関係者が話し合い、基本的には医療機関への入院支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署による救急法の指導を学ぶ機会を持ち、基本的な事はできるようにしているが、全職員が身に付けているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1度、地域住民参加(今年もコロナにより例外)の避難訓練を実施しているが、全職員が身に付けているとは言えない。	洪水、土砂災害などの訓練を実施しているが、9月はコロナのため消防署の立ち会いがなかった。10月から毎月独自に訓練を計画している。停電時の対策として自家発電機を設置した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉遣いや声のトーンで対応を心がけているが、ため口になってしまう時がある。	排泄の声かけは小声で行い、丁寧な言葉使い、利用者の気分や希望を尊重した対応を心掛けている。毎月のフリーテーマの学習会に職員が「利用者の尊厳」について資料作成し意識的に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう働きかけているが、業務の流れとして職員の都合での支援になる事がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、その日の様子に応じて支援しているが、職員優先になっている事もあり十分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用したり、好みの服に着替えたり、化粧をされる利用者もあるが一部の方に限られている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼や嚥下、その時々状態により食事形態を考えている。片付けは利用者の日課になっているが、準備や食事は一緒に行っていない。	常勤の調理師が担当していて目でも楽しめるように盛り付けを工夫し提供している。一部の人は片づけや食器拭きなど一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録・把握し、少ない方にはゼリーなどを提供するなど工夫しながら摂取して頂いている。栄養バランスが気になる方は、かかりつけ医に相談し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはほぼ毎食後実施している。週1回の訪問歯科との連携もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行が難しい方でも立位が可能であれば、タイミングを見計らってトイレへの誘導・介助を行っているが、おむつの使用を減らす事など自立に向けた支援にはつながっていない。	立位が可能な人にはできるだけトイレで排泄できるように声をかけ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの物での水分の摂取、マッサージなど予防に取り組んでいるが、運動はなかなか難しく、下剤を使用している方が多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合になりがちだが、計画的に行っている。本人に声をかけ、無理強いせず入浴されている。	その時の希望やタイミングに合わせて支援する人もいるが、全介助の人には計画を立てて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のタイミングや、介助で入室されている。巡回時状況を伺うなど、安眠できるよう部屋の温度、明るさなども調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個別ファイルに入れ、必要に応じていつでも確認できるようにしているが、目的や副作用までは理解が不十分である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事はお願いし、ねぎらいや感謝を伝えるようにしているが、役割・支援はご自分から要望や意見を言われる一部の方に限られている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	過ごしやすい気候の時期は外気浴に出かけているが、コロナの影響でドライブ外出の支援はあまりできていない。	外出の機会は減っているが状況を見て花見ドライブに出かけたり、天気の良い日は散歩や庭の花を摘んだり外気浴の支援をしている。希望で散歩に出かける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多くの方は事業所で管理している。所持されている方もあるが、コロナの影響で外出が難しいため使う機会がほぼない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は、必要時支援しているが、他の方はあまりやり取りできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度、テレビの音量などに配慮している。季節の花を生けたりしているが、生活感や季節感はあまりない。	タペストリーを飾り、利用者と一緒に摘んだ花を生けることもある。ホールにソファを置き好きな所で過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、自由に座ってくつろげたり、好きな場所に座ってお話しされたりできるよう配慮しているが、車椅子使用の方が多くなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れた物や写真などを持ち込まれ、安心して過ごされるようにしているが、工夫の余地はある。	利用者によっては思い出の品やお気に入りのぬいぐるみ、家族の写真などを持参している。転倒防止のため家具の配置を工夫し足元に物を置かないようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を分かりやすく、トイレはなるべくご自分で安全にできるよう、手すりや表示を付けるなど工夫しているが、車椅子使用の方が多くなっている。		